

Stage Up

2005年

3

月号

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 138



「春の訪れ・岡上のハナモモ」：佐藤 尚 画

もくじ

8 7 6 4 2

生涯学習ア・ラ・カルト
特集 インタビュー 関塚 隆さん
ぐるーぷBOX / いま地域で学校で
まち・ひと・多面体 / くらし百景
イベントパーク
歌壇

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085
ステージ・アップ直通 TEL 044 (733) 5811 E-メール: stage-up@kpal.or.jp

●はぐくむ●

川崎市青少年教育施設連携事業の報告

2004年度「川崎こどもあそび隊」

「自分のことは自分でやる」「みんなと協力する」「みんなで楽しく遊ぶ」の三つの約束を合言葉に、4回にわたって実施した「川崎こどもあそび隊」(小学4年生から中学生)の48人の仲間が全日程を終え解散しました。

第1回は9月25日(1泊2日)に宮前区の「青少年の家」で行われました。レク、野外でカレー作り、「子ども夢パーク」(高津区)へのポイントラリーなどを楽しみました。初めて出会った顔は少し緊張していました。

第2回は10月30日、多摩区の「青少年創作センター」で白樺を使った工作と等身大の全身自画像作りをしました。仲間や班、全体での活動も定着し始めました。

第3回は11月20日(1泊2日)に麻生区の「黒川青少年野外活動センター」で、長い竹を切り出して竹炭や竹の食器作り、黒川歴史散歩などを行いました。班や全体の中で自分の役割を自覚し行動するようになりました。



最後は1月5日から8日までの4日間、「八ヶ岳少年自然の家」で、蕪玉とアイスクャンドル作り、スキー訓練、野外でのどんど焼き、アストロドームでの星観察などで自然を体感。全員が準備していた出し物を爆笑の中で出し切りました。参加者とボランティアスタッフが、限界まで体力と知力を使いきった4日間でした。

《参加者の感想》

- ・とっても心に残った。またくる!はずさないでね。(彩)
- ・最初はみんなバラバラだったけど最後はちゃんとした(たぶん)まとまってよかったです。(桃)
- ・本当にみんなと一緒に何かできるのっていいなあ…って感じるものがありました(岐)

生涯学習ア

●アカデミー●

「第13回川崎学サロン」のお知らせ
 影向寺と橘樹郡衙遺跡～川崎の古代を考える

- 日 時…2005年3月25日(金) 午後6時～8時
- 会 場…中原市民館 第1会議室
- 講 師…川崎市市民ミュージアム学芸員 浜田晋介
- 定 員…40人 ●入場無料

我が国の7世紀から8世紀にかけての時代は大きな変革の時代でした。豪族たちの支配の象徴も、古墳築造から寺院建立へと大きくシフトしてきます。これらは奈良時代の律令国家の成立を考える上で重要なポイントです。

今回は、地方社会の中でも直接的に支配に関わる郡の役所と寺院に焦点をあて、古代の社会を考えます。また、近年、川崎市内で調査が進んでいる橘樹郡衙遺跡や7世紀末に建立された影向寺の資料も示して川崎の古代についても紹介します。

かわさき市民アカデミー2005年度開講式記念講演

天寿を全うするための科学技術

－光触媒を例にして－

- 日 時…4月8日(金) 午前11時～12時30分
- 会 場…川崎市生涯学習プラザ401大会議室
- 講 師…(財)神奈川科学技術アカデミー理事長 藤嶋 昭
- 定 員…100人 ●入場無料

◆申し込みは、住所・氏名・電話番号を明記の上、はがき・FAXでアカデミー室まで。

〒211-0064 中原区今井南町514-1
 川崎市生涯学習振興事業団 アカデミー室

問い合わせ ☎044(733)6626/Fax044(733)6697

フリーマーケットの売上金などを福祉事業に寄附

(財)川崎市生涯学習振興事業団は1月26日にフリーマーケットの売上金など62万6千円を福祉資金として川崎市(阿部孝夫市長)に寄附しました。当事業団では、周辺住民のみなさんに日ごろの感謝の意を表すとともに、収益金を福祉事業に寄附することを目的に、毎年11月に「地域ふれあい事業」としてフリーマーケットを開催してきました。事業団も職員がボランティアで衣類やコーヒー、綿菓子などを販売しました。また市立図書館から不用になった本を譲りうけて、プラザ一階のロビーにリサイクル本として常時展示し、生涯学習プラザの利用者に1冊10円以上でご協力をいただいております。このような事業を4年間続けて、市民の皆さんの協力金が一一定額となりましたので、福祉事業に全額寄附させていただきました。



寄附金を東山副市長に手渡す木村事業団副理事長

ラ・カルト

●たのしむ●

春の「スポーツ教室」受講生募集

スポーツ教室で身も心も軽やかにリフレッシュしませんか。

①エアロビクス教室

4月18日(月)～6月27日(月) 10:00～11:10 全10回
受講料6,000円 定員40人

②気功太極拳教室

4月19日(火)～7月12日(火) 10:00～11:30 全12回
受講料7,200円 定員40人

③ヨーガ教室

4月12日(火)～7月26日(火) 14:00～15:30 全15回
受講料9,000円 定員40人

◆会場◆川崎市生涯学習プラザフィットネスルーム
(JR・東横線武蔵小杉駅徒歩12分)

◆申し込み◆①②は3月17日(木)、③は3月15日(火)必着、
往復はがきに教室名・〒・住所・氏名(ふりがな)・
☎・年齢を記入し、下記あてにお送りください。

〒211-0064 中原区今井南町514-1

川崎市生涯学習振興事業団 学習推進室

問い合わせ 学習推進室 ☎044(733)5572

●さがす●

自宅のパソコンから学習情報を発信

昨年12月から、「ふれあいネット」がインターネットを
経由して利用できるようになり、施設の利用予約や、
生涯学習情報の引き出しなどが簡単になりました。さら
に、ふれあいネットの利用者登録をしている方は、生涯
学習情報の中にある「電子掲示板」に、自宅のパソコン
から情報(音楽・美術など8分野の催しや講習会)を直
接入力すれば、電子掲示板に掲載することができます。

■電子掲示板への情報掲載の方法■

①「川崎市の公式ホームページへ接続」⇒②「ふれあ
いネット(施設予約)」⇒③「ふれあいネットインタ
ーネット入り口」⇒④「ふれあいネット」⇒⑤「生涯
学習」⇒⑥「電子掲示板」を順次クリックします。⑦
案内に従って情報を入力して実行ボタンをクリックし
ましたら学習情報室へご連絡ください。入力された情
報の内容確認後に掲示板に掲載します。

問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250

アカデミー
ひとみ彩

高森町援農のプリマ・ドンナ

清水 素子 さん

かわさき市民フロンティアでは毎年春と秋の二回、
信州伊那谷の南にある高森町の果樹園で援農作業を
していますが、この事業の基礎づくりをされたのが清水
素子さんです。

かわさき市民アカデミー「94余暇生活」コースで学
ばれた清水さんは、介護の仕事の傍ら、多方面でボラ
ンティア活動をされています。

この援農にあたっては、持ち前のバイタリティを発
揮して高森町まで事前調査に出かけ、「猫の手クラブ」
との共催で実現されたとのこと。



現在、春の「りんごの花摘み」、秋には「市田柿の
もぎ取り」と「りんごのまくり」(木を休めるために
全ての実をもぎとる)作業を行っています。

また、99年にはかわさき市民アカデミー主催の研修
旅行先として高森町を訪れ、川崎市民と高森町の方々
との交流を機に、りんごの直売が川崎で行われるよう
になりました。

高森町は、天竜川と中央アルプス、南アルプスに囲
まれた地です。朝の8時半から夕方4時半まで各農
家に分かれての作業に、始めはおっかなびっくりの参
加者たちも、そのうち夢中になって時のたつのも忘れ
て作業に打ち込んでいます。「こんなすばらしい景色
の中で人とふれあい、やさしさや自然の大切さを学び、
農家の厳しさを教えられ有意義な時間です」「作業後
の温泉や交流会もとても楽しいです」と好評のようです。

また、農家の方からも「ほんとうに忙しい時に来て
くれて、助かっています。話をするのを楽しみに待っ
ていますよ」と言っていたが、作業をする手もはず
みずみず。この援農作業を通じて各農家との新しい交流
も生まれています。参加希望者は年々増えていますが、
自然相手のことで、昨年は天候不順と台風の被害で収
穫量が少なく、手伝いを断念しました。清水さんは、「都
市と農村の新しい交流のかたちにしていきたい」と語
っておられました。

(かわさき市民フロンティア 保科銀二 記)

このコーナーは「かわさき市民アカデミー」の修了生による
組織で地域貢献を目的とした「かわさき市民フロンティア」
が担当します。

特集

インタビュー

川崎フロンターレ監督

関塚 隆 さん

鮮やかなボールさばき、華麗なシュートに、等々力競技場のスタンドを埋めたブルーの波がうねり大きな歓声があがります。昨年、川崎フロンターレは快進撃を見せ、J2史上最速で優勝し念願のJ1昇格を決めました。ホームゲームでは20勝2敗と圧勝し、市民に大きな感動を与えてくれました。

今号では、チームを勝利に導いた監督、関塚隆さんのインタビューを掲載します。温かな笑顔が印象的な関塚さんは高校・大学・社会人チームで選手として活躍。その後、J1のチームで11年間コーチとしての経験を積み、昨年初めてJリーグの監督に就任、見事な采配で目標を成し遂げました。「継続は力なり」がモットーという関塚さんに、麻生グラウンドでの練習後にサッカーの魅力や監督の仕事、J1での抱負などをお聞きしました。



J1定着と優勝めがす

——川崎フロンターレのJ1昇格おめでとうございます。最初に監督のサッカーとの出会いについてお伺いします。

関塚 小学校のころは巨人ファンでした。船橋の出身なのですが、野球が盛んなところで、小学校2・3年生のころは野球をしていました。同居していたところがサッカーをしていて、天皇杯に連れて行ってくれたんです。それで興味を持つようになり学校にサッカー部があったので4年生の時に入ったのがきっかけです。ポジションはフォワードで、点をとる喜びや大会で勝ち進んでいく間にサッカーの楽しさ、魅力を感じるようになりました。中学でサッカー部に入ってから本格的に練習するようになりました。

——サッカーの魅力は何ですか。

関塚 スピード感ということが一つあると思います。限られた時間の中で勝つためにはどうしたらいいのか。それを瞬時に判断して動くということが魅力です。もう一つは、サッカーはチームスポーツだということですね。一人だけが長けていても勝てない。ボールを媒体にしたチームプレーが大切で、その連帯感が僕は好きですね。それと同時に個々が自立していなくてはいけない。サッカーは個々の判断力、創造性が要求されるスポーツで、監督から言われたことを素直にやっっていればいいわけではありません。練習では指導者からいろいろ教わりますが、試合になったらその場面ごとに自分の中で判断してプレーしてい

かなければなりません。複数の選択肢の中から最良の方法を選択できる自由を個々人が持っているということ。そこでそれぞれの独創性が発揮できるというのがサッカーの面白さではないかと思います。

——これまでの歩みの中で特に心に残っていることは？

関塚 選手時代では、26歳から27歳の時に腰を手術しています。復帰するまでに一年間リハビリをしました。一番あぶらがのっている時期でしたが、日常生活に支障をきたすほどの痛みでした。怪我で現役をやめたくないという意地があって、手術後3シーズン日本リーグで戦いました。そのことは自分でも幸せだったと思います。周りの人たちに支えられ助けられたからできたということを感じましたね。

93年にコーチとして鹿島アントラーズに入ったのですが、最初のステージで、チャンピオンになれたということが特に印象にありますね。

——監督になって最初に選手に話されたことは何ですか？

関塚 目標はJ1昇格、これが大前提。大事なことは三つ、一つは日々のトレーニングで積んだことを試合で百パーセント出す。そのためには全力でトレーニングしてもらいたいということ。二つ目は、“For The Team”（チームのために）という気持ちで一丸となろう。選手は32人いるけれど試合に出るのは11

人しかいない。でも現場のスタッフもみんな同じ気持ちになろうということ。チーム全体の和が保たれていることが大切だと思っています。三つ目はコミュニケーションを大切にしようということですね。「チームのために」という気持ちを持ちながら、言いたいことは言い合おう。主張するには、やることをきちんとやってから主張して欲しいと。そして、目標に向かって一年間やっていこうと話しました。

——11年のコーチ経験を経て監督になられたわけですが、コーチと監督の違いは？

関塚 監督は全責任を担っている、常に決断をしなければならない。結果に対して責任を持つということです。コーチは相談役で監督が代わってもできますが、監督は結果を出さなければそこでの仕事はできません。チームカラーが大事なんですけど、その中でも監督の色というのも必ずありますよね。その色を自分が指導者として持つということが大事だと思います。いろんな監督を見た中で自分はどの色になるかということも年齢的にも定めなければいけない。自分はどんなカラーを作るか、それにトライしたいと思います。



熱い戦いにどよめく歓声

——監督に就任して一年でJ1に昇格、その手腕が高く評価されていますね。

関塚 僕の力だけで昇格が実現できたわけではありません。さまざまな要因がうまくかみ合ったのだと思います。鹿島のコーチとして11年やってきて、そろそろ監督にトライしたいと思っていた時期に監督要請の話がありました。一方選手は、一昨年勝点1の差で昇格を逃した悔しい思いを抱いていました。僕がこれまでに蓄積したノウハウと、選手の思いがよいタイミングで一致し、またいいスタッフにも恵まれたので、このような結果に結びついたのではないかと思います。

——試合に負けた時は選手にどんな助言をするのですか。

関塚 誰かのせいにするのではなく、自分を振り返ります。試合までの一週間の流れの中でどう作ってきたか、それに対して相手との対戦の流れはどうであったかをしっかり分析し、選手に納得するような形でフィードバックします。周りに「頑張れ」というのではなく、自分から「元気を出してやっていこう」という姿勢を選手に見せることが大事だと思っています。消極的になったらプレーも消極的になるのでそこが一番怖いところです。連敗したこともありましたが、負けを自分の中で認めざるを得ないという場合でも、それをどうバネにして、チャレンジする気持ちに持っていか。切り替えを早くして、前向きな気持ちにさせる雰囲気をつくるようにしています。

——J1での抱負をお聞かせください。

関塚 やるからには優勝を目指すことが大事なのですが、一足飛びにそこまではいかないと思うので、J1に定着できるチーム力を蓄えることが今シーズンの一番の目標です。それには昨年と同じように一戦一戦をベストの状態ですべて相手に挑んでいく、そういう試合を積み重ねていくことによって上位にからんでいけるようなチームになることを目指していきます。



ベンチから選手に指示をだす関塚さん

——話は変わりますが、監督が子どもたちにサッカーを教えるとしたらどんなふうにしますか？

関塚 一緒にサッカーを楽しむことをまずやるでしょうね。そして、プロの技を肌で感じてもらえるようなことをしますね。例えば、みんなをゴールの後ろに集めて、Jリーガーの一人にボールを蹴ってもらう。怖くなるような強いボールが来るのを実際に見ることで「何でこんなに強いシュートが打てるの？」と感じるでしょう。また、一緒にミニゲームをやって、選手が足でボールを操っている場面を見れば「どうして足でこんなに自由にボールを扱えるの？」と心に残るでしょう。ふれあいを通して「小さい時から練習を積み重ねればできるようになる」ということを教えたいですね。本物を見てもらう、体験することが一番大事かなと思います。

——子どもたちを含めたファンに監督からメッセージを。

関塚 プロサッカーリーグは地域密着ということが一番大事だと思っています。「川崎市にはわれらのチーム、川崎フロンターレがあるんだよ」という気持ちを一人でも多くの方に持っていただいて、これからも応援・ご支援していただきたいと思っています。そうなるためにもより身近に感じられるような活動をしながら、J1定着と優勝を目指して戦っていきたいと思います。多くの方に等々力に足を運んでいただいて我々の後押しをしてもらいたい。サポーターの期待に応えられるべく全力で戦っていきます。

関塚 隆さん (せきづか・たかし)

川崎フロンターレ監督。1960年生まれ。千葉県出身。千葉県八千代高校、早稲田大学、本田技研で選手として活躍。その後、早稲田大学サッカー部監督を経て、93年1月に鹿島アントラーズコーチに就任。ジーコ、トニーニョ・セレーゾの下でコーチングを学ぶ。95年清水エスパルスコーチ、96年1月に鹿島に戻り、2004年1月、川崎フロンターレ監督に就任。「継続は力なり」がモットー。麻生区在住。

ぐるーぶBOX

静ひつな音色を奏でる

「箏同好会」

金曜日の午後、心安らぐ箏の音が川崎区の教育文化会館の一室から聞こえてきます。弾いているのは「箏同好会」(石井里子代表)のメンバー6人です。12年前に同館主催の成人学校の終了者で発足したこの会は「和を大切にゆっくりと」をモットーに、山田流箏曲教授の三田村鳳翔さんの指導でけいこに励んでいます。これまでに習った曲は45曲。区内で行われる演奏会やさまざまな催しなどに出演し、息の合った演奏を披露しています。

会員は、若いころに箏を習ったことのある方がほとんど。仕事や子育てが一段落し、自分の時間が持てるようになって再び箏を始めたとのこと。同会では、3人一緒にけいこをつけてもらいます。「自分がブレーキにならないように」と、各人が家で練習してくるので「個人で習うより進み具合が速い」と三田村さんは話しています。

取材に伺った日は「街の朝」「東獅子」という曲をおさらいしていました。最初に曲を通して弾いた後、今度は苦手な部分を繰り返し練習。真剣な表情で箏と向き合っています。「二・四・五・七・九・十」と三田村さんが弦の番号を唱えながら、3人の弾き方を見えています。「無駄のない指使いを

すれば間違えなくなります」とアドバイスしていました。順番を待つ人もカセットテープレコーダーに録音したり、譜面を見ながら指を動かしたり、注意点をメモしたりと、とても熱心でした。

会員の声「先生から譜面をいただいたときは、自分には難しく無理と思うのですが、練習を続けているうちに弾けるようになってきます。それが何よりの喜びです」。

◆活動日：第1・2・3金曜(原則として)、13時半

◆場 所：教育文化会館 第4学習室

◆連絡先：☎(288)3043の石井さん



いま地域で学校で

体験学習会と収穫祭で地域の人と交流する

—西高津中学校—

高津区の西高津中学校(斎藤元校長、生徒数559人)では、8年前から学校近くに農園を借りて生徒が野菜を作り、それを使って会食する「収穫祭」を行ってきました。「収穫祭をより地域の人とふれあう場にしたい」との思いから、西高津中学校区地域教育会議が行ってきた「カルチャー教室」を合わせて、午前中に体験学習会、午後には収穫祭の二本立ての「西中トライ・やる・ディ」を企画、昨年12月に実施しました。



体験学習会のメニューは「皮工芸」「染め物」「わら細工」「手話」「福祉介護」「ヒップホップダンス」など24講座と多彩。それぞれの講座の講師は地域の方が担っています。体験学習会には同校の生徒だけでなく、小学生や保護者、地域の方々も希望した講座に参加しています。

「福祉介護」の講座では「高齢者擬似体験中」でした。手足の関節に特殊なサポーターを巻き、手にグローブをはめ、サングラスをかけるなどして、80代の身体を体感しています。全身に装具をつけた後、さまざまな動作にトライしてみます。豆を箸でつまんで皿に移す作業では、うまくつまめず首をかき上げて四苦八苦。いつもと違う感覚にとまどっている様子。階段をこわごわ降りている生徒もいました。

「竹トンボづくり」の講座では、真っすぐ上に高く飛ばすためのコツを教わっています。「プロペラ型の竹の左右が釣り合うように」と講師からアドバイスされ、生徒たちは真剣な面持ちで黙々と竹を削っていました。

午後には、農園でとれた野菜でつくった豚汁を参加者全員に配り、収穫の喜びを分かち合いました。

斎藤校長は「こんな体験活動が出来たらいいなという願いで地域の方に呼びかけたら多くの方に協力を頂き、講座を増やすことができました。生徒たちはとても楽しみにしていました。交流をすることで小学生や地域の方とのいい人間関係が広がっていくのではないかと思います」と語っていました。

まち・ひと・多面体

力を合わせて森づくり

「高津区市民健康の森を育てる会」

里山を守り育て、自然環境の学習や地域コミュニティーの場として人と自然との共生を図り、森の管理・運営を定期的に行っているボランティアグループが市内7区にそれぞれあります。川崎市が1995年に「健康都市宣言」を発表したことに端を発し、各行政区で「市民健康の森」の事業が始まりました。今回は、2001年11月から活動をはじめた「高津区市民健康の森を育てる会」(鈴木穆会長 会員117人)の活動を取材しました。

場所は第三京浜道路下を市民プラザ通りが走る橋付近で区のほぼ中央に位置し、面積は約7.3ヘクタール。クスギ、カシ、コナラ、ミズキ、桜、竹など樹木が生い茂り、森の部分と丘の部分からなっています。

会の活動は、土・日・木曜日で平均月に8~9回と活発です。作業前に前回の反省、今日の手順、道具の使い方等注意事項を確認しあい作業に入ります。各人の技術と体力に合わせて比較的自由にそれぞれ得意な分野で作業を展開し、協力し合います。湧き水のでる森の一部で蛍の生育も行っていますが、散策路の整備、笹竹の伐採、枯草・瓦礫の除去など丘周辺の作業が中心です。竹炭づくりをはじめ森全般の指導を



行っている会の相談役の島根正隆さんは「当初、一帯は葛畑、篠竹がいっぱいでした。『ゆっくり みんなで 楽しみながら』森を育てています。四季折々の景色が楽しめる森に再生させたい」と話してくれました。

里芋、サツマ芋、レタスなどの野菜づくり、落ち葉で堆肥も作ります。山野草に詳しい人、農作業、大工仕事、竹細工の得意な会員もいます。「散策路ができた時は嬉しかった」「活動を通して学ぶことが多いです」等会員の声も弾んでいました。なお、高津区市民健康の森に参加・見学を希望される方は、高津区役所地域振興課まちづくり担当へ。

◆問い合わせ ☎(861)3133

くらし百景

歌壇

田園都市短歌会

重心を右に左に傾けて古い二団坂のほり来る

飯島智恵子

「ほのぼの」と「澤の鶴」とが寄り添って皆既月食に浸りし堤

どこの寺の鐘をはなれて来し音いろ去年より今年の虚ろを埋めて 五十嵐美子

大根の葉裏しろじろひるがえし冬將軍が丘畑をゆく

骨一本垂れ下りたる雨傘をそ知らぬ体さして歩めり 大井田啓子

まぼろしとなりしソ連を讀ふると歌声喫茶「ともしび」揺れる

胡椒振るかたえで猫はくしゃみする人とおんなじ機能もちて 鈴木芙美江

はふはふと揚げたてゴロッケつまみ食うわが足首に猫は頬寄す

退屈を逃れんために浦島は竜宮にわれはコンビニへ行く 千々和久幸

着信の記録はあれど留守電にイエスの声は残りておらず

本籍地地震に揺らぎてわが体ひねもすふわわ呼応している 長野 道子

朝顔の小さく咲きいる神無月嵐も地震もぶるつと桃色

洗うたび小さくなくてゆく顔と思う今年を終い湯にいて 丸山三枝子

思い直し思い直して過ごし来し今年と思う除夜の鐘鳴る

会いたくてただ会いたくて六時間待ちし日のありかの日の駅に 宮口 弘美

母われの知らぬところで始まって終った恋らし息子は二十歳

わが右のイヤリングいまも隠れいんぱりオペラ座の跳ね椅子の窪 渡辺礼比子

ラウンジに華やぐ会話真実に触れられぬよう触れもせぬよう

ひっそりと川面をみつめる釣人の丸めた背中見て通り過ぐ 脇谷 房子

コウベ屋のテーブルにひとりパンを食ふ台風一過の白雲早し

*田園都市短歌会の発足は、平成十四年十一月で、この会は「香蘭」代表千々和久幸氏(現代歌人協会会員)を囲む会です。ある程度作歌経験のある歌人の集いで、中堅歌人を育成することが狙いの錬成道場です。会場は、溝口駅近くの「てくのかわさき」。毎月第一木曜日午後です。

問い合わせ ☎〇四四(八五五)三八九一 大井田

情報コーナー **イベントパーク** 講座・コンサート他

● 景観シンポジウム「わたしが主役！身近なまちづくり」
～アイデア募集から実現まで

3月5日(土)13時半から。会場は川崎市総合自治会館。無料。定員200人。☎(200)3022川崎市街なみデザイン課。

● 絵本の世界を楽しもう「どうぶつと絵本」

3月5日(土)13時半から。場所は川崎区のプラザ大師。絵本作家のあべ弘士さんの講演。先着150人。申し込み受付中。直接来館か電話で。☎(266)3550の同館。

● 子どもたいけんミュージアム「コラージュであそぼう」

3月26日(土)13時半から15時半の間。川崎市市民ミュージアム。対象は小・中学生とその保護者。無料。☎(754)4500。

● 東芝科学館実験教室 ①アトム工房②GEMS探検隊

①は3月5日(土)「マジック貯金箱」。対象は小学校1年生以上の親子30組。②は3月19日(土)「シャボン玉のミステリー」。10時から小学1年～3年。13時半から小学4年～中学生。各回50人。教材費は各500円。☎(549)2200の同館。

● 川崎難聴者・耳の日のつどい

3月6日(日)13時半。川崎市国際交流センター。内容は難聴者の手話・読話・手話ダンス、字幕落語など。参加費1000円。☎川崎市中途失聴・難聴者協会Fax(753)0596。

● 川崎糖尿病市民講座

4月2日(土)14時、高津市民館。予防のための生活習慣や目の病気について。講師は高橋裕昭・高橋眼科医院長他。相談コーナーあり。無料。☎045(474)0361の西村さん。

● 玉川大学公開講座

3月開講の「チャペルコンサート」「生き物ウォッチング」「小児救急法講座」など9講座の受講生募集。詳細は☎042(739)8895の同大学継続学習センター。

● 簿記3級能力検定準備講座

4月4日～7月4日の月・木曜18時15分から、全25回。労働会館。先着35人。受講料22000円、教材費1500円。☎3月13日(日)9時から電話で。☎(222)4416の労働会館。

● 川崎市民プラザ「春の短期水泳教室」

3月26日(土)～30日(水)7時50分～8時50分。対象は5歳～中学生。受講料5000円。☎(888)3131の同プラザ。

● 中村正義の「顔」展

3月4日(金)～5月29日(日)まで。麻生区細山の中村正義美術館。正義の初期の「自画像」から晩年の代表作「ピエロ」まで、生涯にわたる「顔」を展示。一般500円、大高生300円、小中学生200円。開館日は金～日と祝日。☎(953)4936。

● 浮世絵に見る多摩川(六郷)展

3月10日(木)～26日(土)まで。川崎区の砂子の里資料館。無料。10時開館。日・祝休館。☎(222)0310。

● ミニ画廊スナック「琴」①写真②油・水彩

①は3月12日(土)まで。きらく会の作品。②は3月12日(土)～3月26日(土)、川村康則の風景・花の作品。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。☎(544)0507。

● 春風亭小朝独演会

3月19日(土)14時。川崎市民プラザ。出演は春風亭小朝他。3500円。プラザフロント他で発売中。☎(888)3131。

● 川崎市定期能3月公演

3月12日(土)。川崎能楽堂。第1部は14時開演、「能」井筒・観世恭秀。第2部は16時開演、「能」舍利・岡本房雄、田辺哲久。各3500円。チケットは同所で発売中。☎(222)8821の川崎市文化財団。

● ランチタイムコンサート

3月16日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。出演は黄原亮司(チェロ)水野ゆみ(ピアノ)。曲目は「ユーモレスク」他。無料。☎(520)0200のミュージア川崎シンフォニーホール。

● 第6回ランチタイム・クラシックコンサート

3月9日(水)12時10分開演、ミュージア川崎シンフォニーホール。出演は、東京交響楽団トロンボーン四重奏団(荻野界・若狭和良・上原規照・宮本直樹)。曲目は「亜麻色の髪の乙女」ティボールの「序奏、主題と8つの変奏」他。500円。☎(520)0200の同ホール。

● 川崎童謡の会～梅のうたコンサート

3月9日(水)13時半開演。高津市民館。ゲストは安田祥子、塚田佳男。2800円。☎(434)6417の事務局吉井さん。

● 合唱団「虹」第3回コンサート～虹いろ音楽館

4月10日(日)14時開演、川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)。1部はオペラハイライト、2部は「昭和」おもいでの小径。出演は笹子まさえ(メゾソプラノ)他。入場料1000円。☎(755)0890「さえの会」事務局木村さん。

● 「ワンダフル・サードエイジ2005」募集

「サードエイジ」とは、年齢にとらわれず日々をエンジョイし、人生の黄金期を過ごす人々のこと。趣味、ボランティアなどに地道に頑張っている人・団体を募集中。自薦、他薦、年齢、性別、国籍不問。3月31日必着。☎03(3486)9444のアクティブ・エイジング・キャンペーン実行委員会事務局。

▶ お知らせ ◀

財川崎市生涯学習振興事業団では、市民の皆さんの多様な学習要求に応え、自主的な学習活動を支援する場として、次の施設を用意し皆様のご利用をお待ちしております。

各種サークルの活動や研修会、音楽・合唱・スポーツなどさまざまな学習の場としてご利用ください。

施設名	所在地	施設内容	問い合わせ先
川崎市生涯学習プラザ	中原区今井南町514-1	会議室、多目的ルームなど	☎044(733)5560
新百合トウェンティワン	麻生区万福寺1-2-2	多目的ホール、会議室など	☎044(952)5000